

研究発表もうしこみフォーム

氏名： ボルジギン・ブレン

氏名のローマ字表記： **Borjigin Buren**

所属：北海道大学大学院・文学院

専門分野：モンゴル近代史

発表のタイトル：吉原四郎と東部蒙古ー「アジア主義」との関連に注目して

発表要旨（600字～800字程度）：

日清戦争以降、日本の「蒙古」地域へ関心は、進出するロシアと対峙するために、戦略的な観点から、モンゴル人の動向を含んだ現地情報を収集するという目的で始まったことが先行研究によって知られている。しかし、現地に派遣された日本人、とりわけグンサンノルブ王の招待によりハラチン右翼旗の顧問となった軍人、教師、学者たちは、現地での体験を通じて、情報収集を超えたより深い「蒙古」理解を得ていたことが読み取れるであろう。

本報告では、日露戦争前後の蒙古地域における日本側の活動と近代化をめぐる蒙古内部の動向について、蒙古に諜報員として派遣された一人である吉原四郎(1872-1908)を中心に、モンゴル王公らの動向と合わせて考察することを目的とする。従来の研究では、吉原四郎は伊藤柳太郎と同じ1903年にハラチン右翼旗の「武備学堂教習、兼同王府教育経済顧問」となったことのみ知られているが、彼がどのような活動を行っていたかについては明らかにされてこなかった。本発表では、報告者により新たに発見された吉原四郎の手記や武器売買の契約書などを分析し、彼の活動がハラチン右翼旗にとどまらず、東部蒙古全体に広く及び、調査や武器売買などの活動を行っていたことを明らかにする。そして、彼は自分の調査活動で得られた体験を基に、『外交時報』や『順天時報』などを通じて、日露戦争直前に「東部蒙古」問題を広く訴え、現地視察者として恐らく初の「蒙古論」を展開していた。報告では、彼が展開した論点について、日本の「アジア主義」やグンサンノルブ王らの動向と合わせて考察することにした。